

## 第6次府中市総合計画後期基本計画タウンミーティング開催結果報告書

- 1 日時：平成29年4月24日（月）午後7～9時
- 2 場所：府中駅北第2庁舎3階 第2～4会議室
- 3 参加者：合計28人

### テーマ1 支え合いのまちづくりと協働 9人

団体：府中市民生委員児童委員協議会、府中の障がい福祉を拓く会、  
府中市シルバー人材センター、各1人

公募市民：5人

職員：地域福祉推進課1人

### テーマ2 地域における子育て支援と協働 10人

団体：社会福祉法人多摩同胞会、ふちゅう子育て応援団、  
NPO法人ACT府中たすけあいワーカーズぽぽ、  
私立保育園園長会、各1人

公募市民：4人

職員：子育て支援課2人

### テーマ3 環境に配慮したまちづくりと協働 9人

団体：NPO法人府中かんきょう市民の会、かんきょう塾ネット、  
浅間山自然保護会、府中水辺の楽校運営協議会、各1人

公募市民：3人

職員：環境政策課2人

意見・アイデア（要旨）

テーマ	検討の視点	内容
<p>1 支え合いのまちづくりと協働</p>	<p>【高齢者や障害者の地域での生活を、自助・互助・共助・公助でどう支えていくか？】</p>	<p>&lt;現状・課題&gt;</p> <p>困りごとの把握が困難</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知り合いやご近所さんに困りごとを言いにくいいため、困っている実態を把握できない。</li> <li>・一人暮らしのお年寄りは引きこもりがちで、コミュニケーションを取ることが難しい。</li> <li>・障害者の方も孤立している。</li> <li>・個人情報の問題、安全性の問題もある。</li> </ul> <p>情報の伝達が困難</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者、視覚障害者などは、情報を伝えることが難しい。</li> <li>“CIL”でも情報提供しているが十分できている訳ではない。</li> <li>・自治会の回覧板は有効な手段であるが、市全域に情報発信するには、市に協力を要請する必要がある。</li> </ul> <p>地域人材が持っている力（能力）の把握が困難</p> <p>定年退職後の方々の活用が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年退職後の方々の力を地域課題解決に活かしてきていない。</li> </ul> <p>マッチングの仕組みの機能が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わがまち支え合い協議会」が人材バンク機能を果たすことが期待されているが、いろいろなニーズが個別にあるため、人材とうまくつながっていない。</li> <li>・別の会議で、学校における英語教育について学校が困っているとの話が出た。市内には大企業も立地しており、海外で活躍した経験のある方々も多く住まれていると考えられるが、この方々のスキルを活かせないか（学校の閉鎖性の問題もある）。</li> </ul> <p>ひとり一人の健康づくりや生きがいづくり、ライフプランづくりが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターの仕事内容は、会社員等が培ってきたスキルを活かすことができない業務が多い。</li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
<p>1 支え合いのまちづくりと協働</p>	<p>【高齢者や障害者の地域での生活を、自助・互助・共助・公助でどう支えていくか？】</p>	<p>&lt;連携・協働のアイデア&gt; 人間関係を構築できる「場」が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々が集まれるカフェなどの場を市民が提供している例がある。このような「場」が成功することが望ましい。このような「場」を継続するためには、収益を念頭に置いて取り組む必要がある。</li> <li>・「HUG(避難所運営ゲーム)」のような「場」も有効である。災害時の避難所の運営を試行的に行うイベントであり、特に障害者や高齢者など、外に出てきてもらいにくい方々と、地域住民がつながりを持てる場として有効である。</li> <li>・顔と顔が繋がれば、地域参加しやすい。「場」があることで交流が生まれる。</li> <li>・今回のタウンミーティングも、もう少しラフな形でできる良い。そこに行けば、話ができるというような場が望ましい。</li> </ul> <p>社会に役立つことがやりがい・生きがいに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支え合いを推進するためには、“楽しいこと” “役立っていること” などを感じられることが重要である。</li> <li>・定年退職後の方々に地域活動に参加されていない方々を動かすには、地域で「やりがいのある仕事」があると良い。自分のノウハウを活かせる場所があることで、協働につながる。</li> <li>・ハローワークとシルバー人材センターの隙間を埋める仕組みがあると良い。定年退職後の方々が専門性を活かすことができ、より高い賃金が得られる仕事を紹介できる仕組みがつかれないか。「(仮称)ゴールド人材センター」など。</li> <li>・年金窓口において雇用の話ができるようにすることはできないか。</li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
1 支え合いのまちづくりと協働	【高齢者や障害者の地域での生活を、自助・互助・共助・公助でどう支えていくか？】	<p>自助（自立）のための仕組みを構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年退職後の方を対象に、年金の手続きの際などに、教育と具体的な支援プログラムを提供する。</li> <li>・例えば、少しでも長く健康でいられるよう、健康づくりの必要性の教育や健康づくりをサポートする仕組み。地域社会での生きがいづくりをサポートする仕組み。また、生活困窮に陥らないよう、ライフプランづくりをサポートする仕組みなど。</li> </ul> <p>スマホのアプリなど ICT を活用したマッチングシステムや「場」を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近話題になっているフリマアプリのように、「やりたいこと」「やってほしいこと」をネット上で公開し、マッチングする仕組みを構築できないか。</li> <li>・掲示板などでも良い。</li> <li>・ネットで話題(テーマ)と場所が検索できる仕組みを構築し、話したい人同士がつながる「場」を提供できないか。</li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
2 地域における子育て支援と協働	【子育てしやすいまちをつくるために、地域で連携して取り組むべきことは？】	<p>&lt;現状・課題&gt;</p> <p>各種団体の横のつながりの強化が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふちゅう子育て応援団連絡会」は、行政と団体、団体同士の情報交換や連携強化を目的に活動している。私立幼稚園・保育園に参加を呼びかけているが実現していない。また、問題の認識や共有はできているものの、解決までつなげることができていないのが現状である。</li> </ul> <p>各種団体の活動への認知が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の取組として「子育ての玉手箱」の作成、サイトリニューアル、アプリリリースを行っている。</li> <li>・営利の要素が入ると、市役所や公共施設等にピラを置きたくても断られる。</li> <li>・愛児園では営利団体のピラであっても設置できる場所を設けている。</li> </ul> <p>活動する人の高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスを利用したことのある人に声掛けしようとしても、個人情報保護の制約もあり難しい。</li> <li>・サービスの利用中であれば手伝ってくれる人もいるが、ボランティアベースなのでずっと続けることは難しい。</li> </ul> <p>言葉ができない外国人の保育サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生など言葉ができない外国人については、コミュニケーションが難しく適切なサポートが難しい。</li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
2 地域における子育て支援と協働	【子育てしやすいまちをつくるために、地域で連携して取り組むべきことは？】	<p>&lt;連携・協働のアイデア&gt;</p> <p>各団体の活動について知ることができる仕組みの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対市民、対団体の両面で有効である。</li> <li>・市のアプリ、私立保育園のピラ設置棚など、情報が集まっている場所についての情報発信を強化する。</li> <li>・営利/非営利で区別せず、サービスや活動の内容が有用であれば情報発信できるようにする。</li> </ul> <p>活動に興味がある市民と団体をつなぐ仕組みの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が活動者となるサイクルをつくることが理想である。</li> <li>・個人情報の制約があるため、中立的な立場である行政が仲介役を果たせないか。</li> <li>・ボランティア講座や子供学習指導の育成など、呼び水となる部分を行政で担うことができないか。</li> <li>・地域通貨やボランティアポイントなど、活動することが自分にとってメリットになる仕組みをつくる。</li> </ul> <p>行政と団体、団体同士のネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病児のサポートなどは他団体に利用者を紹介する場合もあり、同じ利用者に各団体が連携して対応する仕組みを強化する。</li> <li>・お互いの活動を知るための情報発信の仕組みを強化する。</li> <li>・「ふちゅう子育て応援団連絡会」のようなプラットフォームとなる場を強化する。</li> <li>・営利活動の情報は団体側で集約するなど、行政と団体ですみ分けも必要。</li> </ul> <p>協働の敷居を下げる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体のスタッフとならなくても、子どもへの声掛けや、体験や手伝いなど、できる範囲で何かしていくことが重要ではないか。</li> <li>・地域とのつながりを持つことが、協働の入口になるのではないか。</li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
2 地域における子育て支援と協働	【子どもの貧困など、子ども・家庭をめぐる問題に対し、どのように連携すれば解決が図れるか？】	<p>&lt;現状・課題&gt;</p> <p>活動する人の高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の講師として団塊世代に期待していたが、会員が5人のみで活動を広げられない。</li> </ul> <p>活動の場所や資金の確保の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の教材を自分たちで作成しているが、印刷にお金がかかる。</li> </ul> <p>同じような活動をしている団体等の間での連携や交流の欠如</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しらとり」では学童の延長で学習指導も行っているが、講師派遣などの連携ができれば良い。</li> </ul> <p>中学生への学習指導が困難</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は、学習内容と思春期のコミュニケーションの両面で対応の難易度が上がる。</li> </ul> <p>サービス拠点・アクセスの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広場事業等を行っている場所は限られ、市のはずれの方の人には使いにくい。</li> <li>・「しらとり」はアクセスが良くないため利用をためらう人も多い。</li> </ul> <p>&lt;連携・協働のアイデア&gt;</p> <p>子育て応援券の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世田谷区のように子育てに用途を限定した商品券を発行し、利用可能な協賛店舗を増やす。</li> <li>・店舗側は、商品券と連動したクーポン発行などのサポートが考えられる。</li> </ul> <p>生産者や企業との連携による親子食堂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもだけでなく親も食事できる場をつくることで家事負担が軽減され、子どもと向き合う時間が取れるようになる。</li> <li>・朝の食事も提供でき、子どもがきちんと朝食をとるようになれば学習にも好影響が期待される。</li> <li>・市内の生産者や企業と連携し、農家の商品にならない野菜やフードバンクを活用することでコストを抑えられる。</li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
<p>2 地域における子育て支援と協働</p>	<p>【子どもの貧困など、子ども・家庭をめぐる問題に対し、どのように連携すれば解決が図れるか？】</p>	<p>多様な団体の連携による子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り、親子食堂、学習、遊びなど様々な団体が連携して子育てに関われば、親の負担が軽減され、子どもと向き合う時間が取れるようになる。</li> </ul> <p>空き家を活かした身近な子どもの居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の持ち主と活動場所を探す団体をつなぐ仕組みをつくる。</li> <li>・空き家を提供することで持ち主の税負担を軽減するなど、空き屋活用を促す仕組みを行政でつukれないか。</li> </ul>



テーマ	検討の視点	内容
<p>3 環境に配慮したまちづくりと協働</p>	<p>【府中市の豊かな緑の資源をまちづくりにどう生かすか？】</p>	<p>&lt; 現状・課題 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「緑」という言葉の再認識が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「緑」という言葉に大自然を想像してしまい、近くにある公園や道の花壇、農地などの小さな緑への意識が低いため、農地や花壇などの身近な緑の風景が減っていつてしまっている。</li> </ul> </li> <li>○わかりやすく、身近に感じられる情報発信が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の基本計画などの分厚い本が作られても、誰も読もうとは思えないし、硬いイメージに取られてしまう。もっとわかりやすく、身近に感じられるような PR、情報発信をしてほしい。</li> </ul> </li> <li>○緑について、身近に教えてくれる人や場所の不足</li> </ul> <p>&lt; 連携・協働のアイデア &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な緑に気づく、興味が持てる活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の花壇づくりや各家の玄関の緑化など、身近な自然に親しむ活動を促進する。</li> <li>・四季を感じられる植樹や公園づくりを行う。</li> <li>・課題のある公園をフィールドに講座を開き、市民が学びながら公園を綺麗にしていく取組が他地域で行われており、市民の学びとコミュニティ形成につながっている。府中市でもそのような取組ができると良い。</li> <li>・空き家の庭木による周辺環境への悪影響の対応として、行政と町内会が連携する。</li> </ul> </li> <li>○地域古来の植物を知り、育てる活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の緑を増やすには、もともと自生していた地域古来の植物を育てることが効率的であるし、自然保護につながる。そのために、団体や学校が連携して、地域古来の植物を伝える「緑の教育」を継続的に行うことが重要である。</li> </ul> </li> <li>○分野間連携が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や緑に対する活動は、専門の組織や団体だけでなく、産業や観光など、幅広く取り組む必要がある。</li> </ul> </li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
<p>3 環境に配慮したまちづくりと協働</p>	<p>【市民団体、民間企業、学校、市などの協働で何ができるか？ 枠組みをどう構築するか？】</p>	<p>&lt; 現状・課題 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動主体の固定化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が一部の人に限られ、高齢化が進んでいる。若い人をいかに取り込むかが重要である。</li> </ul> </li> <li>○緑の教育の継続実施が困難 <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の教育、啓発は、子どもたちから始めていくことがポイントである。そのため、学校との連携が重要であるが、小学3年生までで緑の教育の時間がなくなってしまうこと、校長や先生の方針、知識量で活動が止まってしまうことが課題である。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt; 連携・協働のアイデア &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもをキーパーソンとした緑のまちづくりの啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れられやすい学年には、継続して自然や緑に関する授業をカリキュラムとして取り入れる。</li> <li>・中学生が小学生に自然について教えたり、遊んであげたりする活動を一部の地域で実施しており、子どもたち同士で緑について学び伝えていく流れができている。このような活動をもっと広げたい。</li> <li>・学校の中の自然を学校で管理し、子どもたちにも参加してもらうことで、子どもたちに自然との思い出や愛着を持ってもらうきっかけにする。</li> <li>・子どもたち目線のアイデアを募集する。</li> <li>・親子で参加できるイベントなどの機会をつくる。子どもたちが興味を持つことで、大人も子どもに付き合っ様々な活動に参加することとなり、大人への啓発にもつながる。</li> </ul> </li> </ul>

テーマ	検討の視点	内容
<p>3 環境に配慮したまちづくりと協働</p>	<p>【市民団体、民間企業、学校、市などの協働で何ができるか？ 枠組みをどう構築するか？】</p>	<p>○地域の緑の専門家（コーディネーター）の活躍の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域で、各地区に一人ずつ「緑のコーディネーター（市と市民のパイプ役）」を置いている事例がある。府中市にもそのような活動を行っている団体があり、地域全体に広がると良い。</li> <li>・府中市では、大学で勤務していた元教授などの方が「虫博士」や「石博士」となって、子どもたちに自然体験や学びの場を提供する活動をしている（水辺の楽校など）。現在は、活動が各地域内に限定されているため、それらの活動が地域に限らず、府中市全体をフィールドとして広がるとよい。</li> </ul> <p>○若い世代が活躍できる機会や場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者には難しい活動について募集をかけるなど、若い世代こそ活躍できる機会や場をつくる。</li> </ul>